

# 奈良県の子どもを取り巻く状況について

## ○出生数・児童数等の状況

- 1 奈良県の出生数及び合計特殊出生率の年次推移
- 2 平成24年都道府県合計特殊出生率
- 3 奈良県の6歳未満児童数及び児童人口比率の推移と全国との比較
- 4 奈良県の平均初婚年齢(妻)と母親の平均出生時年齢の推移
- 5 国勢調査等の結果から見た本県の特徴

## ○保育所・幼稚園等の状況

- 6 奈良県の就学前児童の状況
- 7 保育所と幼稚園の施設数の推移(公・私立別)
- 8 市町村別の保育所待機児童数
- 9 放課後児童クラブ数と登録児童数の推移

## ○子育て不安・負担感の状況

- 10 妻の心理的・精神的な子育て不安・負担感
- 11 地域子育て支援拠点事業実施箇所数の推移

## ○児童虐待・社会的養護の状況

- 12 児童虐待相談対応件数の推移(児童相談所分)
- 13 児童虐待相談対応件数の推移(市町村分)
- 14 県内の社会的養護体制

## ○女性の就業状況

- 15 子どものいる有配偶者女性の就業状況

## ○障害児数の状況

- 16 療育手帳・身体障害者手帳所持者数の推移(18歳未満)

## ○妊娠・出産の状況

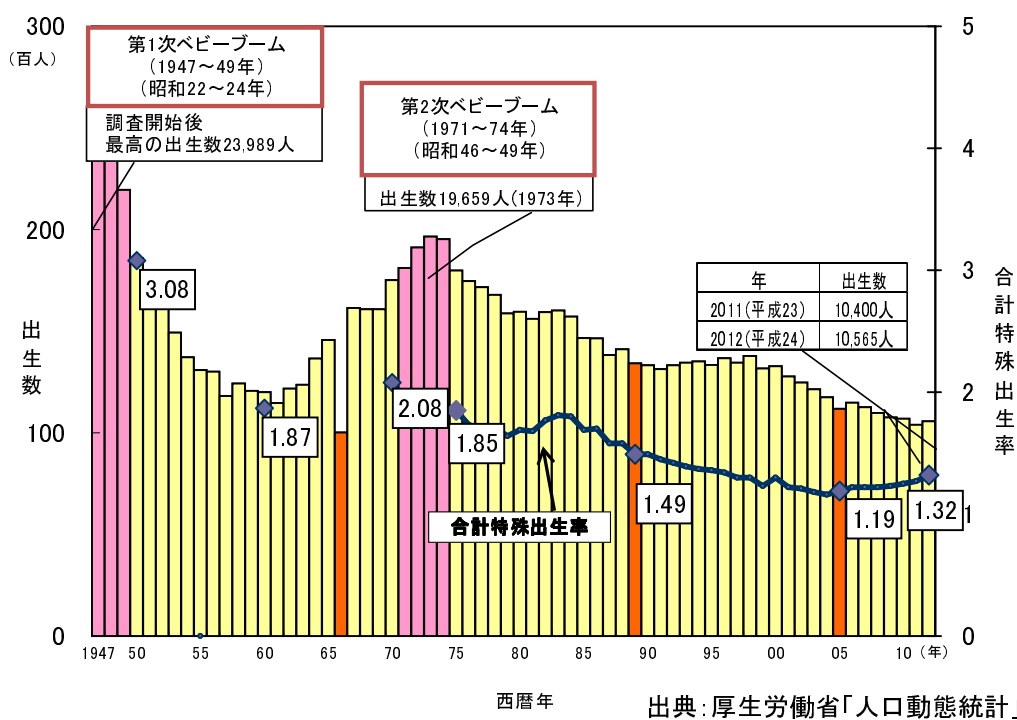
- 17 妊娠届出状況(満11週以内届出率)及び妊婦検診受診人員の推移
- 18 低出生体重児出生率の推移(出生1000対)

## ○子育て支援等に関する意見

- 19 子育て支援等に関する親の声

# 1 奈良県の出生数及び合計特殊出生率の年次推移

○出生数は第2次ベビーブーム以降増加している時期もあるが、減少傾向にある。  
 ○最近5年の合計特殊出生率はわずかではあるが、上昇している。  
 ○奈良県の平成24年の合計特殊出生率は1.32で平成23年(1.27)より0.05上昇しており、上昇値は全国(0.02)よりも高い。



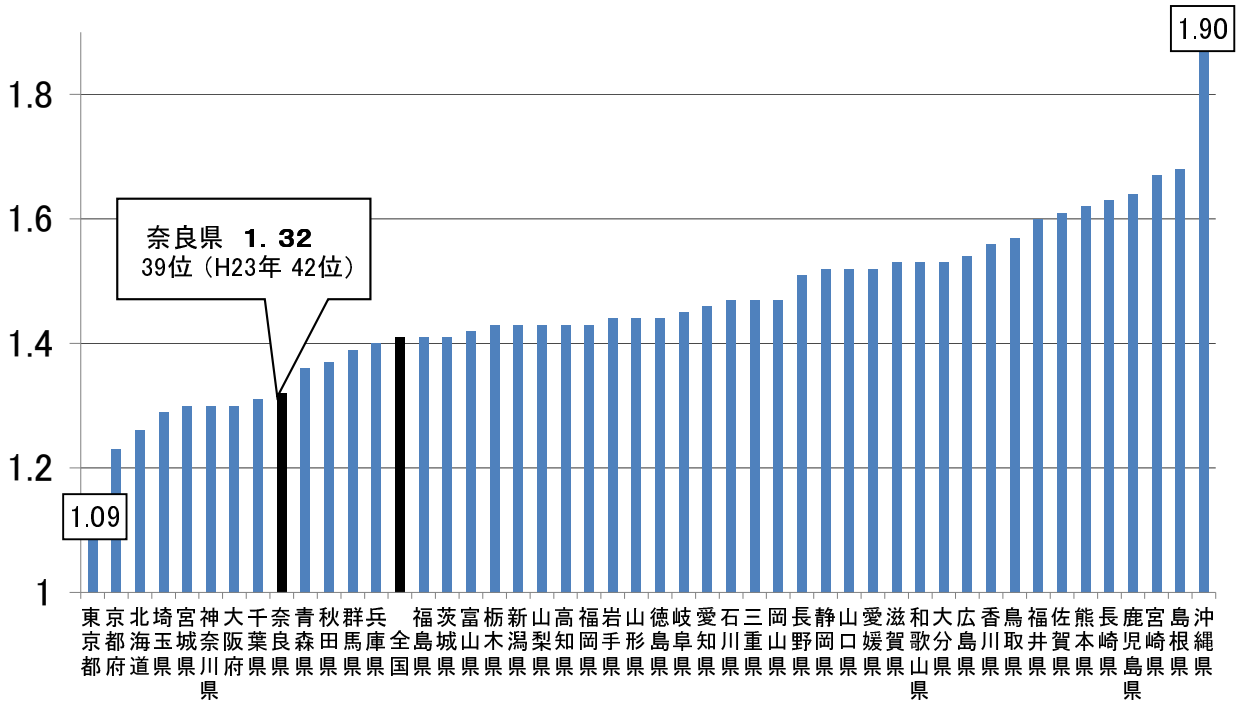
合計特殊出生率	前年比	
最近5ヶ年の推移		
H20年	1.22	0
H21年	1.23	0.01
H22年	1.25	0.02
H23年	1.27	0.02
H24年	1.32	<b>0.05</b>

合計特殊出生率	前年比	
H20年	1.37	0.03
H21年	1.37	0
H22年	1.39	0.02
H23年	1.39	0
H24年	1.41	0.02

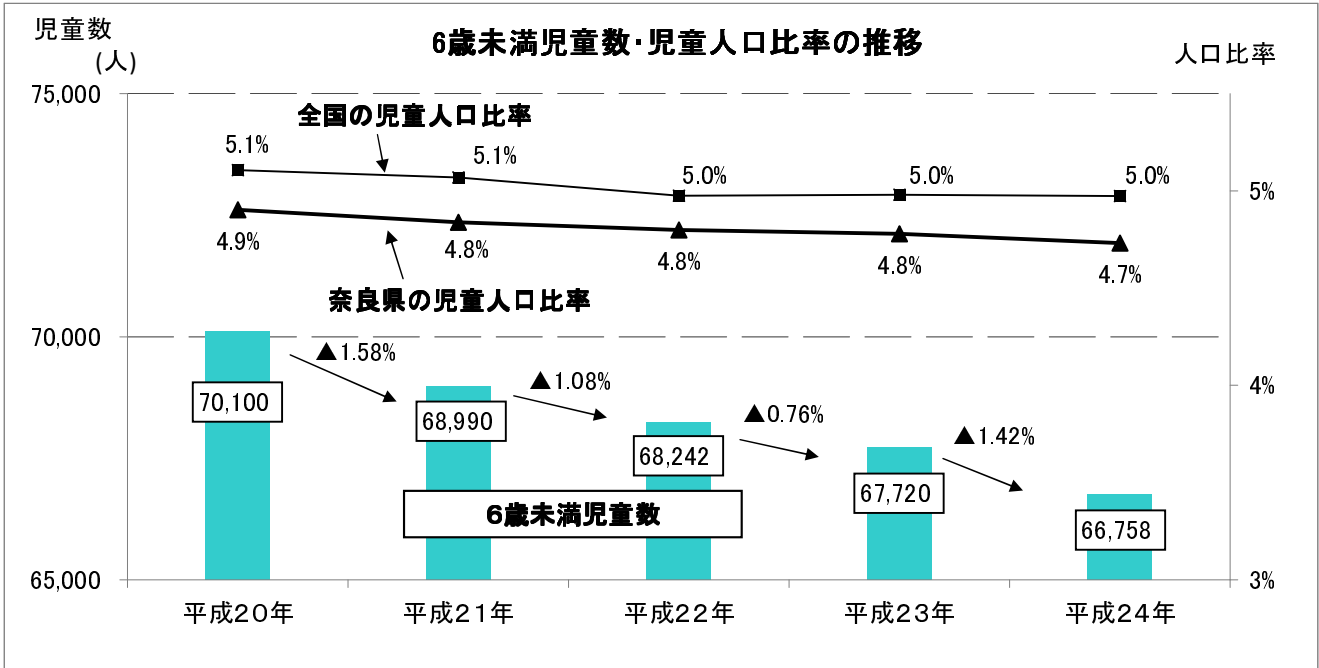
# 2 平成24年都道府県別合計特殊出生率

○奈良県の合計特殊出生率は1.32で、都道府県順位は39位(降順)である。平成23年の42位より上昇したが、全国(1.41)との差は0.09あり、依然として全国と比較して低い。



### 3 奈良県の6歳未満児童数及び児童人口比率の推移と全国との比較

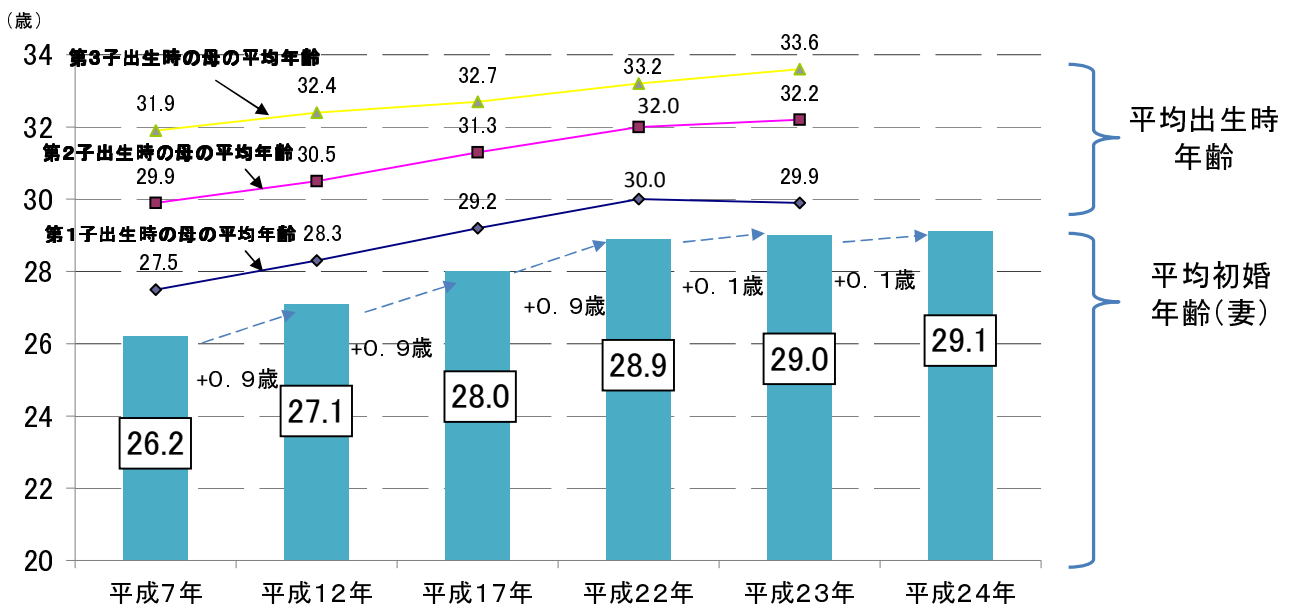
○奈良県の推計人口に占める6歳未満の児童数は、年々減少している。  
 ○児童人口比率は全国と同様に横ばい状態ながら、わずかに減少しており、全国の比率よりも下回っている。



出典: 奈良県統計課「年齢別人口調査」(奈良県値)10/1(住基)  
 総務省統計局「人口推計」(全国値) 毎月(国勢+住基で修正)

### 4 奈良県の平均初婚年齢(妻)と母親の平均出生時年齢の推移

○奈良県の女性の平均初婚年齢は、平成7年から平成22年までの間、5年ごとに0.9歳ずつ上昇しており、晩婚化が進んでいる。  
 ○平均出生時年齢の推移を見ると、晩産化が進んでおり、特に、第1子出生時の母親の平均年齢の上昇が大きい。



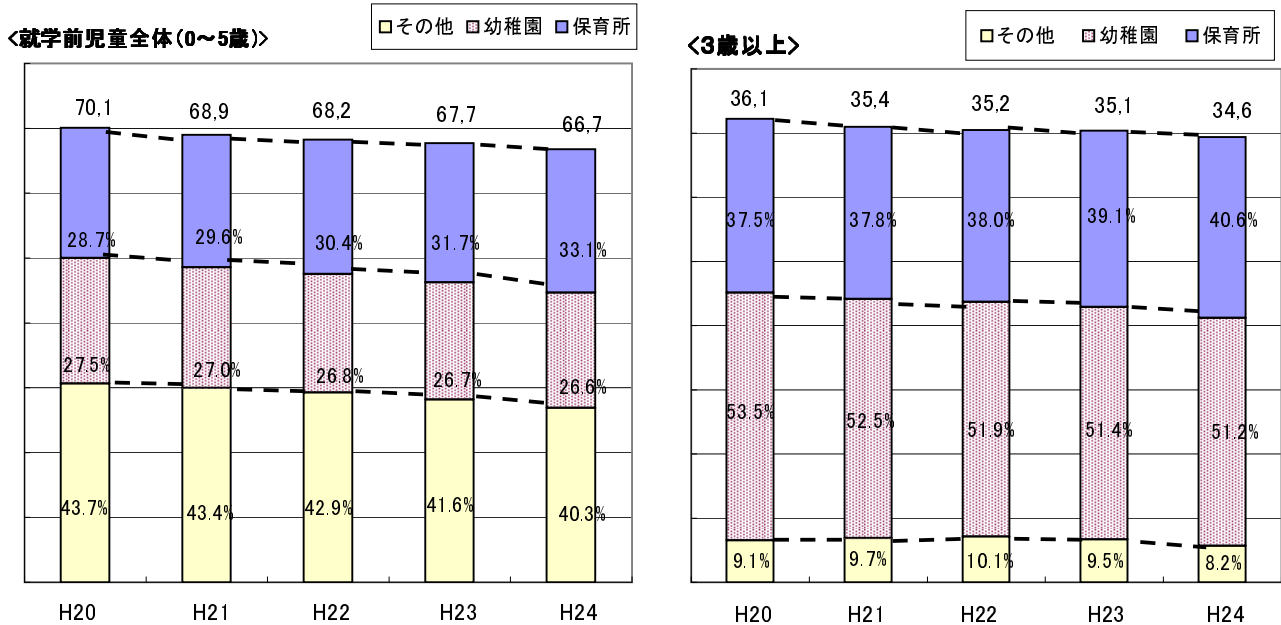
出典: 厚生労働省「人口動態統計」(2010年)

## 5 国勢調査等の結果から見た本県の特徴

指標	全国平均値	奈良県	順位	特色	出典
核家族世帯率	56.4%	64.1%	1位	最も高い	国勢調査(H22)
専業主婦率	39.5%	47.9%	1位	最も高い	国勢調査(H22)
女性の就業率	47.1%	40.9%	47位	最も低い	国勢調査(H22)
女性の県外就業率	5.8%	20.4%	2位	高い	国勢調査(H22)
男性の県外就業率	11.1%	36.8%	1位	最も高い	国勢調査(H22)
男性の仕事からの 帰宅時刻	19時37分	19時45分	8位	遅い	社会生活基本調査(H23)
女性の家事関連時間	3時間45分	3時間59分	5位	長い	社会生活基本調査(H23)
男性の家事関連時間	43分	44分	20位	平均的	社会生活 基本調査(H23)

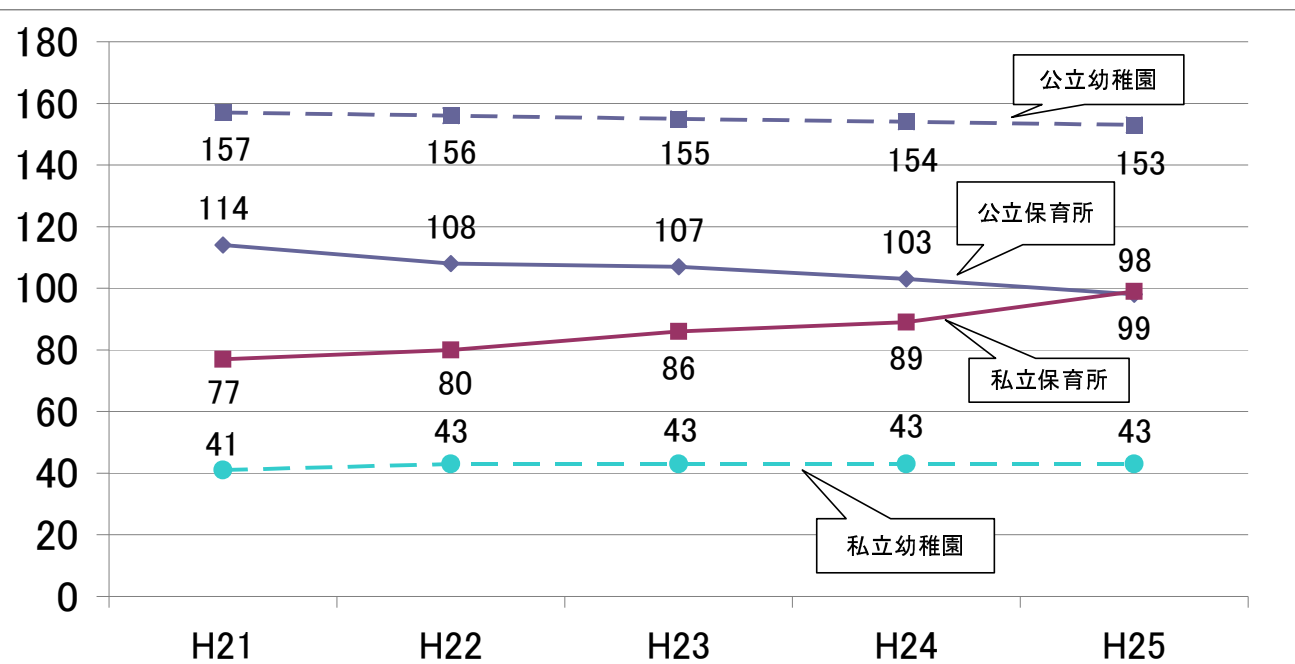
## 6 奈良県の就学前児童の状況

- 少子化に伴い児童数は減少。
- 就学前児童の保育所利用率は年々増加。
- 3歳以上では幼稚園利用が過半数を占める。



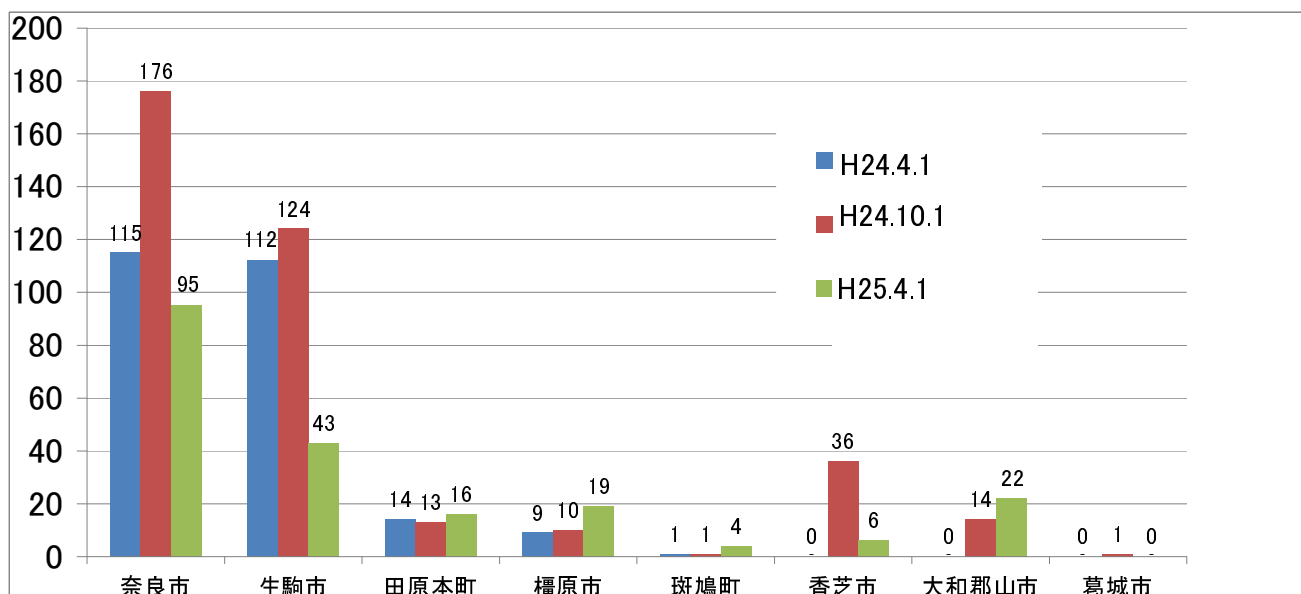
## 7 保育所と幼稚園の施設数の推移(公・私立別)

- 保育所は私立保育所が増加する一方、公立保育所は減少傾向。
- 幼稚園は公私ともにほぼ横ばいで推移。



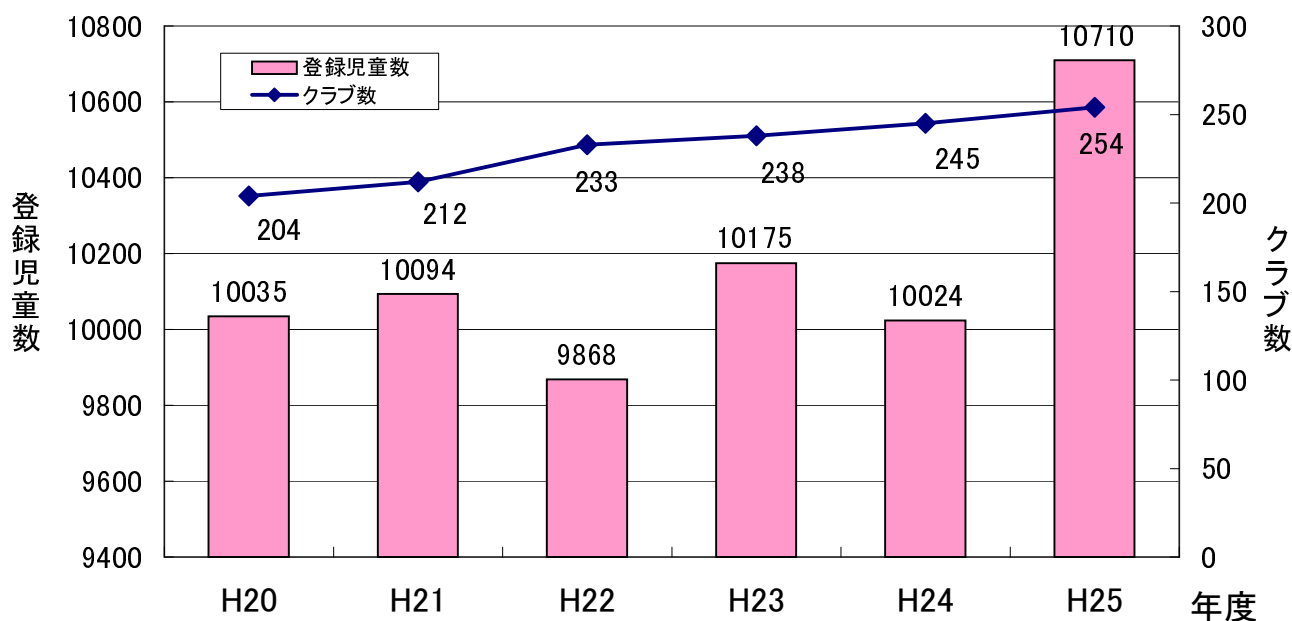
## 8 市町村別の保育所待機児童数

○平成25年4月1日の奈良県の待機児童数は205人。前年同月の251人より減少  
 ○保育所は、年度途中からの利用希望も多く、前年10月1日の待機児童数は375人



## 9 放課後児童クラブ数と登録児童数の推移

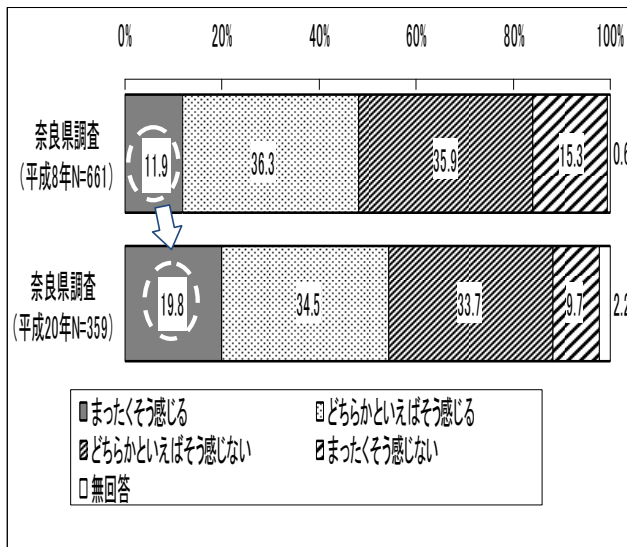
○放課後児童クラブ数は254か所（前年同月から9か所増加）  
 ○また、平成25年5月1日の放課後児童クラブの登録児童数は10,710人（前年同月から686人増加）



# 10 妻の心理的・精神的な子育て不安・負担感

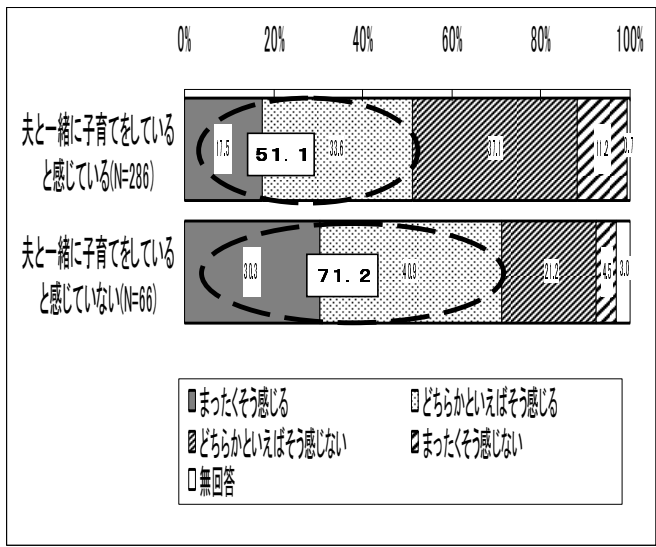
## 妻の子育ての心理的・精神的な不安・負担感 〈平成8年と平成20年の比較〉

○子育てに心理的・精神的な不安・負担を強く感じている妻の割合は、平成8年調査時の11.9%から平成20年調査時には19.8%に増加。



## 夫との子育て一体感別 妻の子育ての心理的・精神的な不安・負担感

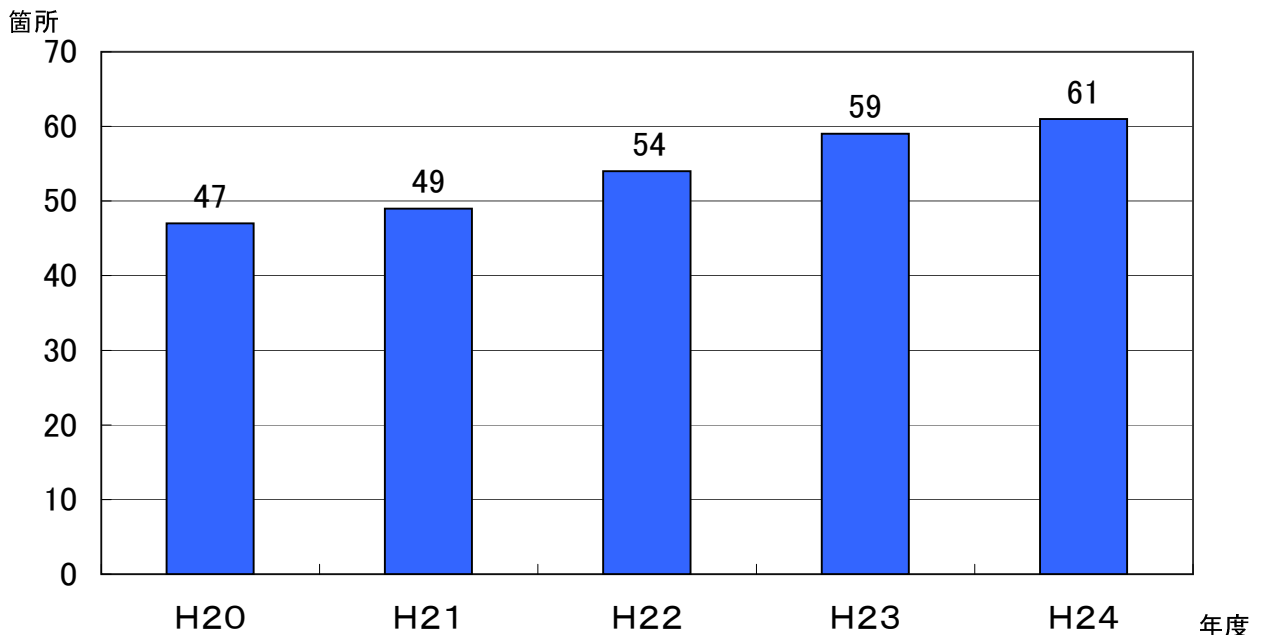
○夫と一緒に子育てをしていると感じていない妻の方が、子育ての心理的・精神的な不安・負担感が高い。



# 11 地域子育て支援拠点事業実施箇所数の推移

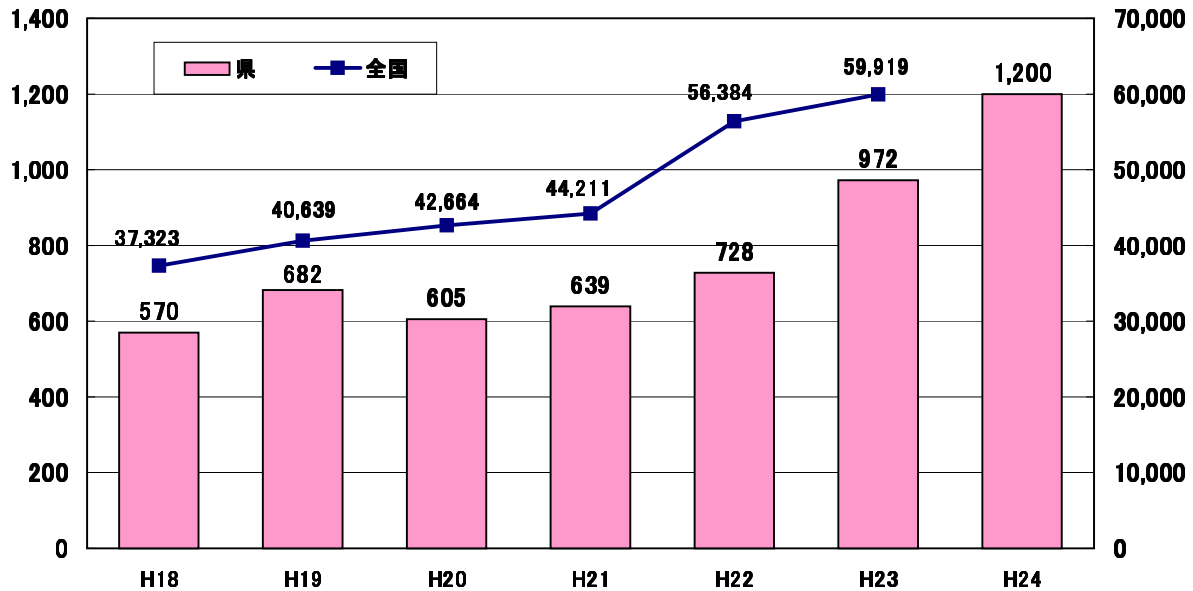
○地域子育て支援拠点事業は、市町村が主に子育ての不安感・負担感の軽減のために、子育て中の親子の交流や相談・情報提供等を実施するもの。

○事業実施箇所数は、平成20年度からの4年間で、47箇所から61箇所に増加(29.8%増)



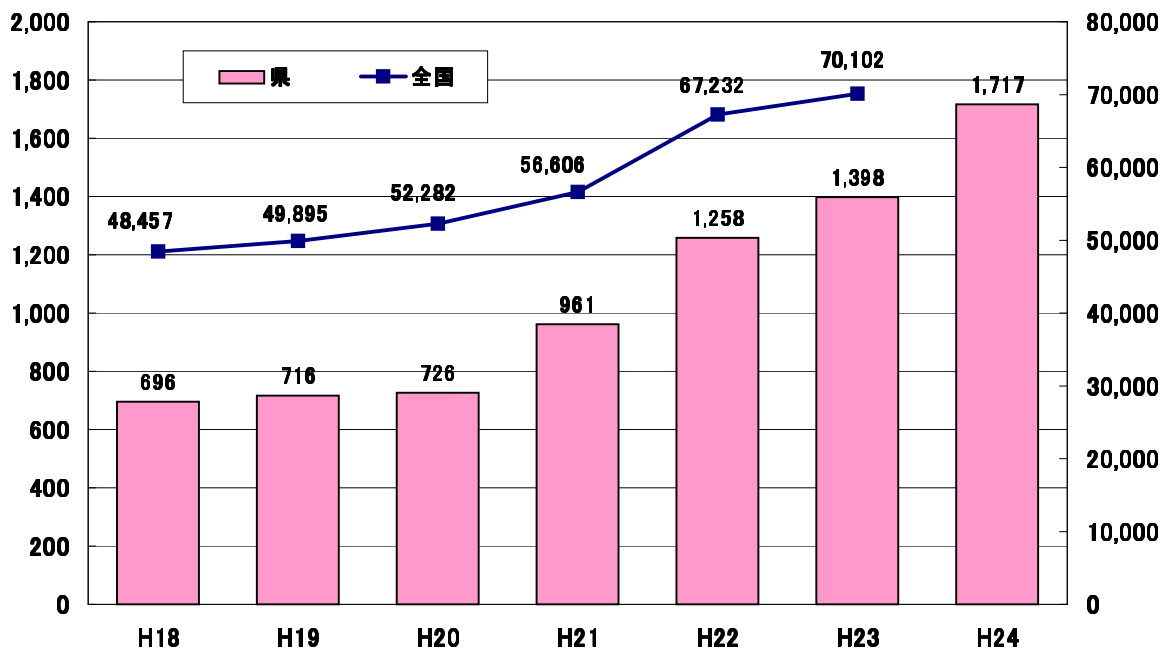
## 12 児童虐待相談対応件数の推移(児童相談所分)

○県こども家庭相談センター(児童相談所)での児童虐待相談対応件数は、平成20年度以降、毎年増加している。  
○平成24年度は1,200件。対前年比228件増(23.5%増)



## 13 児童虐待相談対応件数の推移(市町村分)

○県内の市町村での児童虐待相談対応件数は毎年増加しており、平成24年度は1,717件。対前年比319件増(22.8%増)

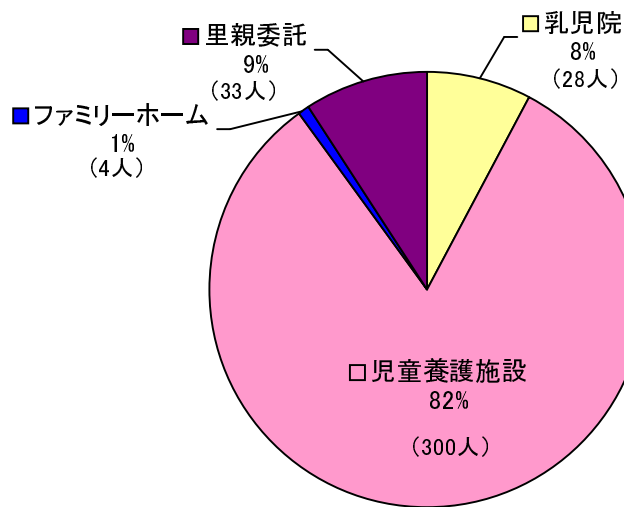




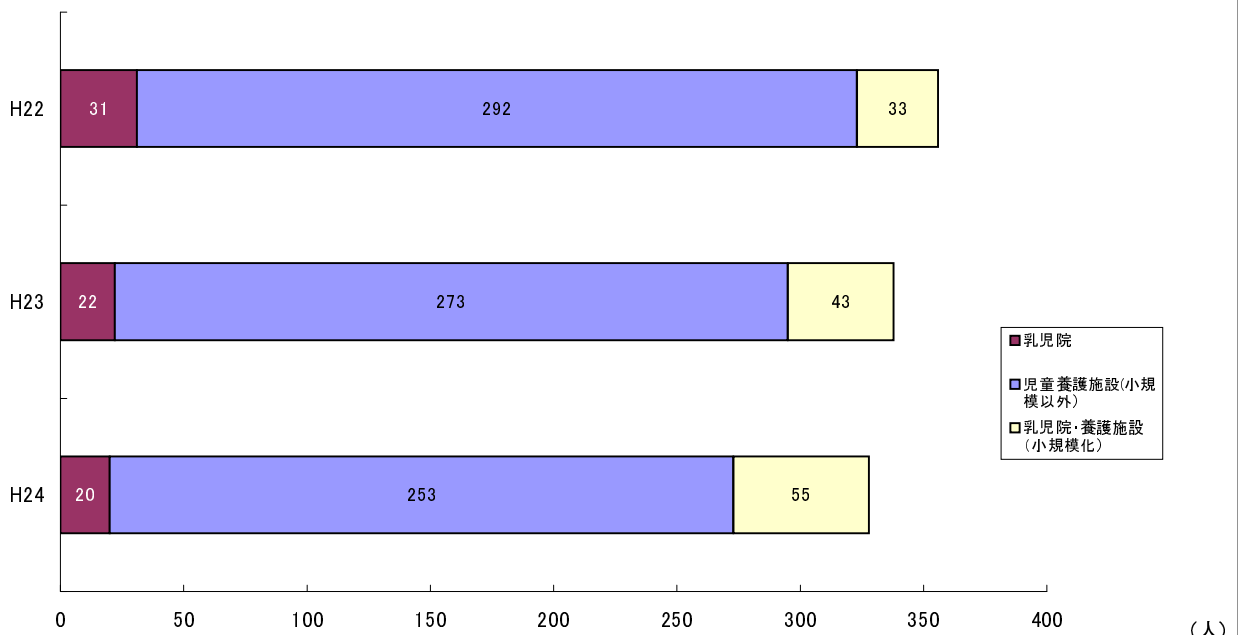
# 14 県内の社会的養護体制について

- 平成24年度の県内の社会的養護(施設入所・里親委託等)で対応する子どもは365人。
- 内訳は、乳児院・児童養護施設328人(90%)、里親・ファミリーホーム37人(10%)。
- 乳児院・児童養護施設では、小規模グループケアや地域小規模児童養護施設での対応見数が年々増加している。

H24年度 県内の社会的養護体制について

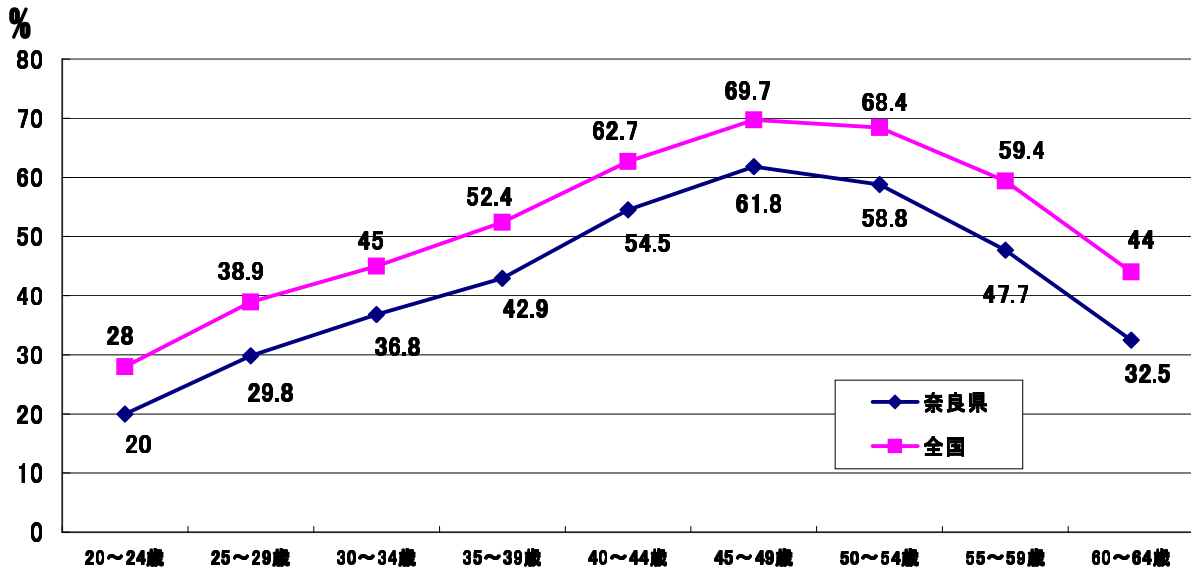


乳児院・児童養護施設における小規模化の推移



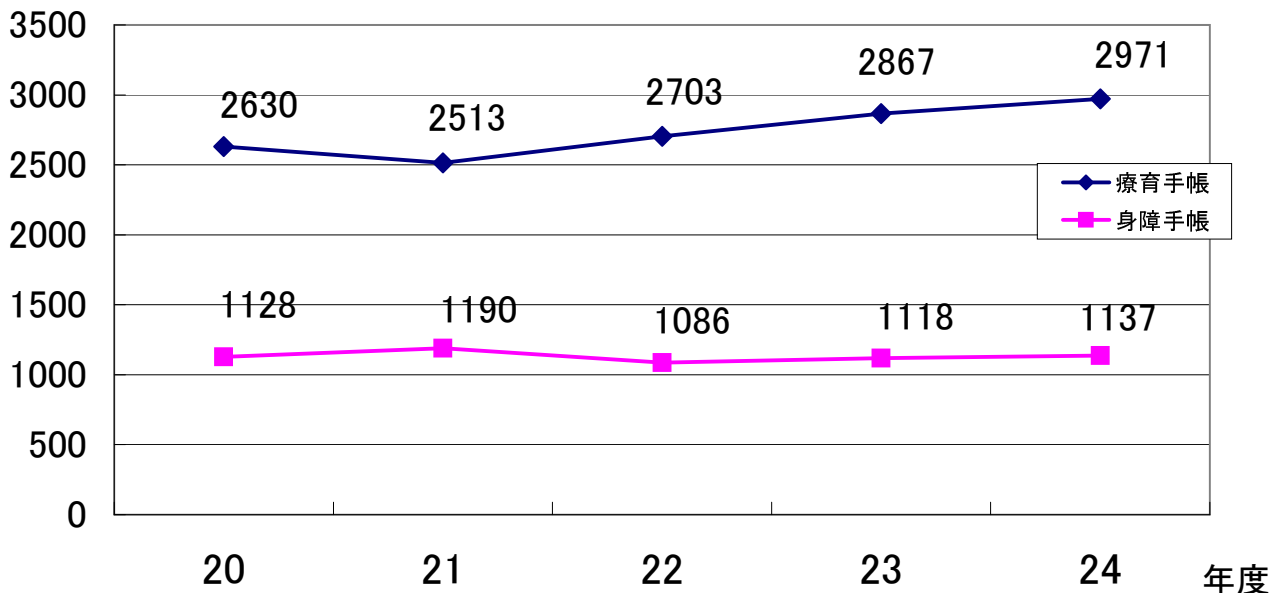
## 15 子どものいる有配偶女性の就業状況 (※夫婦のいる一般世帯のうち妻が就業者の割合)

○奈良県の子供を持つ有配偶女性では、就業率は若年期(20～24歳)から全国と比較して10ポイント低く、子育て一段落後の再就職が進む年齢となっても、全国との差が縮まらない。  
○奈良県の女性の就業率が全国と比較して低い要因には、有配偶女性の就業率の低さが大きく影響。



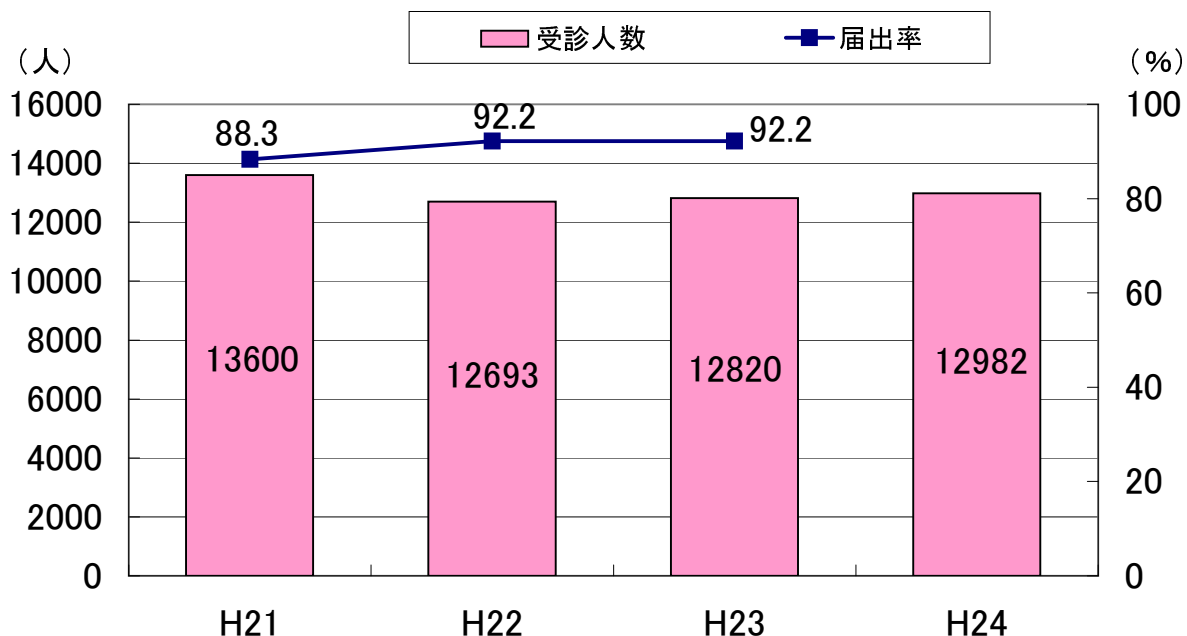
## 16 療育手帳・身体障害者手帳所持者数の推移(18歳未満)

○療育手帳・身体障害者手帳ともに、手帳の交付数は全体として増加している。



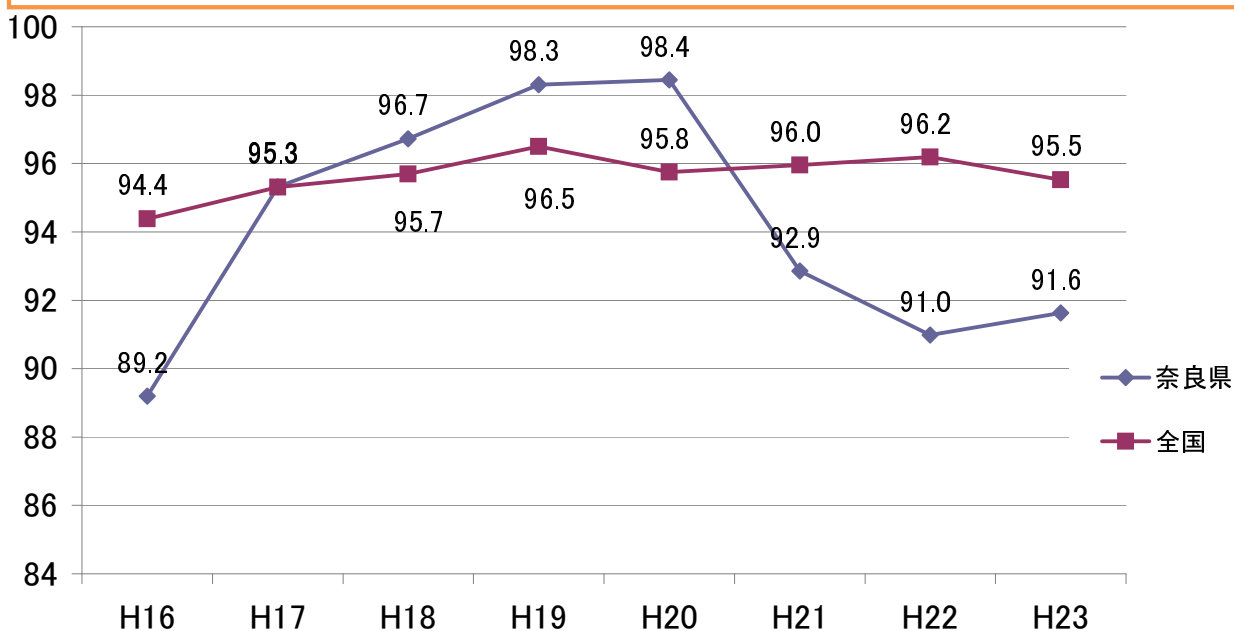
## 17 妊娠届出状況(満11週以内届出率)及び妊婦検診受診人員の推移

- 妊娠届出は、妊婦に対する健康診査、保健指導等の母子保健の向上に関する行政的支援を早期に実施できるようにするもの。
- 妊娠満11週以内の届け出については、目標100%に向けて、啓発等が必要。



## 18 低出生体重児出生率の推移(出生1000対)

- 全国はほぼ横ばいであるが、奈良県は平成20年から低下。平成23年はやや上昇
- 低出生体重児は妊婦の喫煙のほか、低栄養状態(やせ)や飲酒などが原因となって起こる場合があり、必要に応じた保健指導が必要。



# 19 子育て支援等に関する親の声

## I 子育て支援全般

〈H23～24年度 母親へのグループインタビュー及び子育てアンケートから見える課題〉

### 1 子育て家庭への地域における支援活動に関すること

- 昔の子ども会のように**地域の子どもたちが仲良く遊べ、子ども同士の輪が広がるような場**があれば、子どもの社会性が育ち、親も安心でき、誰がどこの子どもかがわかる地域となる。
- 近所の人を頼れない。少しの間**子どもを預かってくれる近所付き合い**など、地域ぐるみでの子育ての支援が必要。
- 赤ちゃん連れで行くところがない。相談する人が身近にいない。**
- 出産して初めて赤ちゃんを抱いた。**何もかもわからず、全てが不安。**
- 子育てに関する制度や相談の**情報を一括して提供**してもらえそうなものがあると日常で活用しやすい。
- 出産後、子育ての情報を集めたり、仕事との両立の中で制度の申請をするだけでも大変だった。**情報を1箇所ですぐに集められて、手配**もできればいい。
- 第2子の子育て時にも、改めて**子育て講座**で学びたい。
- 子育てサークル支援**にも力を入れて欲しい。
- 仕事を持つ母親が土日に利用できる子育てサービス**を充実して欲しい。

### 2 父親や祖父母の子育て参加に関すること

- 子育ては主に母親がするもの、という**世の中の意識を変える啓発**をしてほしい。
- 父親の子育てにおける役割**をもう少し打ち出してほしい。父親も、子どもとどのように接したら良いか、戸惑いがあるように感じる。
- 父親の子育て参加に対する**職場の理解や支援、環境の整備**が必要。
- リタイヤした**シニア層による子育て支援**の推進。
- 祖父母の方にも、今の子育ての現状を理解**してもらえる講習会などがあれば良い。

### 3 子どもを安心して育てられる環境に関すること

- 自分が子どもだった頃のように、家に帰れば必ず誰かが出迎えてくれて、**安心して遊べる環境**が一番必要。
- 駅付近に**授乳室が少ない**ので困る。施設に**親子向けトイレ整備**が不足している。
- 徒歩やベビーカーで**歩道を歩くのが危険**。すぐ横を車がビュンビュン走るので、子どもを歩かせることは不可能。ガードレールのついた広い歩道を整備してほしい。
- 地域や社会から受け入れてもらえているという環境。高齢者の優先座席や女性専用車両はあるが、子ども連れの優先座席は無い。**子育てをする数少ない人が支援されていると実感できる政策**となるよう頑張ってもらいたい。
- 子どもと遊べる屋内施設がなく、商業施設のキッズスペースも不足**している。
- 大型のショッピングセンター等に公立の**キッズコーナー**を設置して欲しい。そこで、イベントや相談等を実施し、おもちゃなどを充実して、閉店近くまで土日も含めて開館して欲しい。
- 雨の日にも利用できて、**2・3歳児の運動不足を解消**できる広い施設、**小さい子どもが安全に遊べる公園**を増やして欲しい。

### 4 その他の意見

- 多子世帯に対して、何らかの支援**をして欲しい。
- 第2子、第3子等を出産するときの上の子の面倒**を見ることができるようになる対策が必要。親が高齢で上の子の世話ができず、父親が仕事を休めない家庭は第2子以降を産みづらい。
- 虐待防止や望まない妊娠を防ぐために、**子どもを産む、育てる困難さを中学生の頃から伝える**ことが必要。
- 予防接種に対する補助の充実**。乳児健診が少なすぎる。
- 身体にハンディがある子どもを持つ親子のサークル的な集まり**があればいい。相談窓口などがわかりやすければ助かる。
- 発達障害を抱える親子への、地元での支援や療育の充実**。
- ひとり親家庭への援助**。ひとり親でも近くに援助者がいない人には、特に子育ての援助が必要。
- 県と市町村との間では、広域的な施策は県で、地元密着的な施策は市町村で**というように、**子育て支援施策のすみわけ**をして欲しい。

## Ⅱ 働きたい、働き続けたい

(H23～H24年度 就業に関するアンケート等から見える課題)

### 1 再就職に関すること

#### ◇長いブランクに対する不安など

- 自身のやりたいこと、適性、仕事と家庭の両立イメージが掴めない。
- ブランクが長期化することに非常に焦りを感じる。

#### ◇子育てしながら就職する際の制約など

- 子どもが小さいことが原因で、面接を受けても採用に至らない。
- パートと派遣事務のどちらにするか悩んでいる。パート先は子育て中の方が多く理解があるが、派遣より時給が低い。

### 2 夫や家族の理解、協力に関すること

- 子どもの病気の時には夫や親族の協力がなくては、働きつづけることは難しい。
- 夫は、家事は女性の仕事、いやなら仕事を辞めるように言う。自分に負担がかかり、疲れた。
- 夫の承諾を得ないと求人に応募できるか決められない。
- 起業することに夫の理解が得られない。
- 子どもの体調不良や学校行事など仕事を休まざるを得ない時が重なった時、周囲の人にうまく頼めずにしんどかった。

### 3 職場環境に関すること

- 女性が子どもができると続けて働く前例がなかったため仕事を辞めた。
- 妊娠中、体調不良のため休職したところ、遠回しに退職を迫られた。
- 子どもの入院生活が長期に及んだとき、退職を促され、仕事を辞めた。
- 子どもが小さいにもかかわらず、通勤に往復4時間かかる地域への転勤を命じられ、やむなく退職した。
- 産休、育休を取って働き続けたいと望んだが、職場の理解がなかった。

## Ⅲ 幼児教育・保育・放課後児童対策

(H23～H24年度 子育てアンケート及び就業に関するアンケート等から見える課題)

### 幼児教育・保育・放課後児童対策に関すること

- 保育所の増設、延長保育の充実などが必要。全般に、子ども世代に予算をかけなさすぎではないか。
- すぐに就職したいが、保育所の空きが無く困っている。
- もっと保育所の定員を増やさないと、育休明けで途中入所できない。
- 保育士の人数確保と教育が必要。
- 幼稚園の3年制を導入し、預り保育を充実してほしい。また、空き教室を利用して給食室等を作ってほしい。プレ幼稚園をもっと増やしてほしい。
- 学童保育(放課後児童クラブ)をニーズに応じて実施してほしい。箇所数の増、時間延長、休日対応など。
- 就労を考えているが、夏休みに小学生の子どもを預けるところがない。
- 就職先が決まらないと学童保育の申込みが受付されない。子どもの預け先が決まらない状態で仕事を探すことができない。